

心電図アカデミー2

in
横浜

日常臨床に携わるメディカルプロフェッショナル・若手医師・研修医の方を対象に、
心電図の読み方を判りやすく解説いたします。

日時 2025年11月15日(土) 9:00～11:00

会場 パシフィコ横浜 アネックスホール 第21会場(F205+206)
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

『ステップアップのための心電図レッスン』

座長：池田 隆徳先生 東邦大学大学院医学研究科循環器内科学

座長：高橋 尚彦先生 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

1) 「心電図による不整脈診断」

演者：佐藤 実先生 北海道医療センター 循環器内科

2) 「心電図による虚血性心疾患/心筋症の診断」

演者：横式 尚司先生 市立札幌病院 循環器内科

◆定員：320名 ※定員になり次第募集を締め切らせていただきます。

◆お申し込み方法

フクダ電子「心電図アカデミー2」 <https://www.fukuda.co.jp/medical/course/> は、

「第71回日本不整脈心電学会学術大会」の参加費が必要です。

大会ホームページ <https://jh2025.ace-enterprise.biz/> よりお申し込みください。

参加登録開始は8月下旬を予定しております。随時HPをご確認ください。

※ キャンセル待ちはございません。受講希望の方は必ずお申し込みください。

※ 原則返金はできません。



◆JHRS認定心電図専門士更新単位を希望される方へ

本セミナーにより更新単位(10単位)が取得できます。

受講証明書の配布はありません。会場前の受講受付で入場・退場時に【来場二次元コード】を読み取り、単位登録いたします。

遅刻および早退は単位認定できません。

◆参加登録およびJHRS 認定心電図専門士資格についてのお問い合わせ先

第71回日本不整脈心電学会学術大会 運営事務局 株式会社ACE エンタープライズ内

E-mail : jhrs2025-regi@ace-enterprise.co.jp

問い合わせ先：フクダ電子株式会社 心電図・超音波講習会窓口(☎0120-155-737[受付時間]平日9:00～17:00)メール fsemi@fukuda.co.jp

※心電図アカデミー1につきましては、nk-seminar02@db.nkc.co.jp(日本光電・心電図アカデミー1係)にお問い合わせください。

座長の言葉

座 長：池田 隆徳 先生

東邦大学大学院医学研究科循環器内科学

座 長：高橋 尚彦 先生

大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

心電図は非侵襲的かつ繰り返し施行可能な循環器診療の基本的かつ重要な検査である。不整脈には、命にかかわるような重篤なものから、経過観察でいいものまで多くの種類がある。この見極めができるようになってほしい。一方、心電図から虚血性心疾患や心筋症の診断に迫ることもできる。ST-T変化が重要であるが、ST-T変化をきたす疾患は多い。どのように鑑別するか学んでほしい。日本不整脈心電学会では毎年メディカルプロフェッショナル向けの心電図判読セミナーを実施している。今回、「ステップアップのための心電図レッスン」と題して、この領域の専門家である2人の先生をお招きして講演していただくことにした。

佐藤実先生には、心電図で不整脈を診断する際のポイントとコツを解説していただく。横式尚司先生には、心電図から虚血性心疾患や心筋症をどのように診断すべきか解説していただく。今回の心電図判読セミナーが、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士のみなさんの心電図判読ステップアップに役立つことを期待している。ぜひ多くの方に聴講していただきたい。

抄録

1)「心電図による不整脈診断」

演 者：佐藤 実 先生

北海道医療センター 循環器内科

心電図検査は、日常診療において最も頻用される非侵襲的検査の一つであり、不整脈の診断において最も基本かつ信頼性の高い検査であるが、その判読には一定の経験と知識が求められる。

本講演では、臨床現場で遭遇することの多い不整脈を中心に、心電図を用いた診断の際に押さえておくべき基本的なポイントと、実践的な判読のコツについて解説する。

具体的には、頻度の高い上室性不整脈（心房細動、発作性上室性頻拍、心房粗動など）と心室性不整脈（心室期外収縮、心室頻拍）の典型的な波形の特徴に加え、重篤な不整脈が疑われる所見（wide QRS、極端な徐脈や頻脈、QT延長など）のチェックポイントを実際の症例を交えながら解説する。

心電図判読は、一見難解に思われがちだが、正しい知識と観察力を持つことで、不整脈の早期発見・早期対応に大きく貢献できる。不整脈の見逃しを防ぎ、迅速な対応に繋げるためにも、日常診療で使える「見るべきポイント」と「診断の勘所」を、実例を通じて共有したい。

2)「心電図による虚血性心疾患/心筋症の診断」

演 者：横式 尚司 先生

市立札幌病院 循環器内科

虚血性心疾患、とりわけ急性心筋梗塞の診断は、心電図が最も活用される領域のひとつであり、ST上昇といえば第一に思い浮かぶ疾患です。ST上昇は貫壁性の急性心筋虚血に相当する領域の誘導で見られますが、ST低下は心内膜下虚血で見られる場合のほか、貫壁性虚血の反対側の誘導で生じている場合（いわゆる鏡面像）があります。標準的な心電図経過を呈する急性冠症候群の診断は困難ではありませんが、多枝病変や側枝病変閉塞時の特徴やde Winter、Wellens's syndromeといったユニークな所見を認識することは心電図診断のスキルアップにつながります。また、STセグメントは心室筋興奮の再分極に相当する時相であり、虚血や肥大といった心室筋の電気生生理学的特性の変化（一次性ST-T変化）のみならず、脚ブロック、心室ペースングといった脱分極パターンが変化（二次性ST-T変化）することによっても影響をうけることを理解する必要があります。たこつぼ型心筋症、肥大型心筋症、不整脈原性右室心筋症、心アミロイドーシスのほか、拡張型心筋症の一部でも心電図診断が有用です。本セミナーでは、これらの話題について情報共有できればと思っています。